

(1日目): 8月2日(土) プログラム

A 会場: 一橋講堂 (2F)

■10:00 ~ 10:05 開会挨拶

現地開催

オンデマンド配信

■10:05 ~ 11:00 会長講演

パブリックメンタルヘルスとトラウマインフォームドケア

現地開催

オンデマンド配信

座長: 高橋 晶 (筑波大学 医学医療系 災害・地域精神医学
茨城県立こころの医療センター 地域・災害支援部
筑波メディカルセンター病院 精神科)
演者: 西 大輔 (東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野)

■11:10 ~ 12:10 戦後 80 年特別講演

現地開催

オンデマンド配信

第二次大戦連合軍捕虜・抑留者問題と PTSD ~日本が与えたトラウマ

座長: 長峯 正典 (防衛医科大学校 防衛医学研究センター 行動科学研究部門)
演者: 中尾 知代 (岡山大学社会文化科学研究科 行動学科目)

■13:40 ~ 14:40 基調講演

現地開催

オンデマンド配信

認識的不正義とトラウマ—当事者研究の視点から

座長: 大江美佐里 (久留米大学)
演者: 熊谷晋一郎 (東京大学先端科学技術研究センター・東京大学多様性包摂共創センター)

■15:00 ~ 17:00 大会企画シンポジウム

現地開催

オンデマンド配信

当事者とともに考えるトラウマティックストレスとレジリエンス—対話し、協働する私たち—

企画者・座長: 白川美也子 (こころとからだ・光の花クリニック)
座長: 大岡 由佳 (武庫川女子大学 心理・福祉学部社会福祉学科)
指定討論者: 熊谷晋一郎 (東京大学先端科学技術研究センター 当事者研究分野)
シンポジスト: 卜田素代香 (当事者支援 HP「THYME」)
丘咲つぐみ (一般社団法人 Onara)
香坂ちひろ (International Foster Care Alliance)
中村 舞斗 (虐待どっとネット)
水谷みつる (トラウマリカバリーカレッジあさがや)

■17:00 ~ 17:20 総会

現地開催

B 会場：中会議場 1 ～ 4 (2F)

■12:30 ～ 13:30 ランチョンセミナー①

現地開催

PTSD の診断的位置付け

座 長： 榊屋 二郎（東京医科大学精神医学分野 主任教授）
演 者： 金 吉晴（国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 名誉所長・顧問）
共 催： 大塚メディカルデバイス株式会社

D 会場：中会議場 1（2F）

■17：15～18：15 ポスターセッション

現地開催

オンデマンド配信

- P-1 動機づけ面接国際ネットワーク（MINT Forum）におけるワークショップ提供の試み～レジリエンスから PTG（心的外傷後成長）の促進に向けてある自死遺族の試み～
青木 世識（カトリック麹町 聖イグナチオ教会 信徒）
- P-2 虐待の“その後”をめぐる試み—『ここいま』の活動報告と今後の課題—
真田 悠生（大阪大学大学院 法学研究科、一般社団法人 TICC 研究員）
- P-3 解離性同一症（DID）に対するトラウマ焦点化療法実施についての検討
—NET（ナラティブ・エクスプロージャー・セラピー）を用いて—
荒川和歌子（南平岸内科クリニック 臨床心理部門）
- P-4 犯罪被害者における周トラウマ期解離と Tonic Immobility の関連に関する文献検討
金井 講治（大阪大学大学院医学系研究科 精神医学）
- P-5 性暴力被害者のためのワンストップ支援センターにおける支援者の語りにみる代理受傷と克服
岡本かおり（清泉女学院大学 人間学部）
- P-6 トラウマインフォームドケアに対する態度と主体価値との関連についての検討
小西 優歌（東京大学 医学系研究科 健康科学・看護学専攻 精神看護学分野）
- P-7 労働災害後の短期的なトラウマ症状の発生率と危険因子：台湾高雄市立小港病院での労働災害の診断と治療の認定医療機関としての経験
楊 鎮誠（台湾、高雄医学大学、高雄医学大学付属病院、高雄市立小港病院 産業医学科）
- P-8 トラウマ歴のある親子に対する親子相互交流療法（PCIT）の治療効果
井上 直美（弘前大学大学院 保健学研究科心理支援科学領域）
- P-9 支援困難対象におけるエンパワメント阻害要因の検討；ルワンダにおける事例の分析と文献的考察
根本 千里（元 JICA）
- P-10 コンパッション・フォーカスト・セラピーを勧められたうつ病や不安症の人たちはどんな心理的特徴を有しているのか？
—小児逆境体験と心理的変数との関連の検討—
浅野 憲一（筑波大学 人間系心理学域）
- P-11 急性期性暴力被害者向け Web プログラム（支援版 SARA）の有効性の検証
今野理恵子（武蔵野大学 認知行動療法研究所）
- P-12 第三者からの痴漢被害者に対する評価—被害者・知覚者要因に着目して—
仁義 優里（徳島大学大学院 創成科学研究科臨床心理学専攻）
- P-13 オートエスノグラフィーを用いた性暴力被害研究における研究倫理に関する検討
田中 里実（青山学院大学 教育人間科学部心理学科、東京都立大学）
- P-14 相手側の PTSD 診断により別室授業の措置を受け適応障害となった小学 5 年男児例の検討
國塩 勝三（岡山博愛会病院 脳神経外科）

- P-15 性暴力被害者の経時的な抵抗行動・解離反応に関する調査
山本このみ（武蔵野大学 心理臨床センター、武蔵野大学 認知行動療法研究所）
- P-16 ペアレントトレーニングに参加する親の小児期逆境体験の割合—養育スタイルとの関連も踏まえて—
高山 桃香（兵庫県こころのケアセンター）
- P-17 児童期に家庭内性暴力を受けた女性たちのリカバリーに寄与・阻害する要因についての考察：複線経路・等至性モデル (TEM) による分析
松本 衣美（東京大学大学院 医学系研究科精神保健学分野）
- P-18 ふくしま心のケアセンターの活動と課題：福島災害被災者への支援の現状
松島 輝明（ふくしま心のケアセンター）
- P-19 ふくしま心のケアセンターの活動と課題：福島災害被災者への精神保健・心理社会的支援
竹林 唯（福島県立医科大学 医学部災害こころの医学講座、
一般社団法人福島県精神保健福祉協会 ふくしま心のケアセンター）
- P-20 シリアにおける人道危機の影響を受けた青少年たちの PTSD とその脆弱的要因の検討
大川 梨恵（武蔵野大学 人間社会研究科）
- P-21 アサーション・トレーニングの効果に関する文献レビュー
浅野 敬子（武蔵野大学 通信教育部人間科学部）
- P-22 心的外傷後ストレス症状を呈する青少年を対象にした認知処理療法（Cpt for Adolescent and Young Adult with Ptss: CAYAP）の開発と予備的効果の検証
片柳 章子（東洋大学 社会学部社会心理学科、国立精神・神経医療研究センター 認知行動療法センター）
- P-23 犯罪被害者支援における警察心理職の役割について—支援事例の分析から
保崎恵理子（京都府警察本部）
- P-24 大学生の逆境の小児期体験の影響とレジリエンスに応じた学生支援を行うための予備的調査
吉田 博美（大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科）
- P-25 トラウマを抱えた高校生がレジリエンスを取り戻すまで～ボトムアップアプローチの実践と効果～
山下 達也（岐阜市民病院 小児科）
- P-26 ボスニアにおける思春期・青年期の子供たちの学業成績：紛争後のストレス症状、自己コントロール感覚、社会的サポート、時間経過の影響
正司孝太郎（人間環境大学 看護学部看護学科）
- P-27 PTSD 患者の在宅での睡眠の実態—睡眠時間は取れているが質が低下？
関場 遥（筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構、国立精神神経医療研究センター精神保健研究所）
- P-28 PTSD に対するオンライン持続エクスポージャー療法の多施設ランダム化比較試験：研究プロトコール
井野 敬子（国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部）
- P-29 治療者による操作でテラーメイド音 VR 作成を可能にするシステムの紹介/体験（イヤホン持参推奨）
山内 由大（筑波大学 システム情報工学研究群）